

医療安全管理学演習

《担当者名》 高橋祐輔 田中真樹 坊垣暁之

【概要】

医療現場では、些細なミスやその重なりが過誤または事故に繋がる可能性がある。一方で、近年の法改正により、臨床検査技師の検体採取における業務内容が拡大した。臨床検査技師による検体採取は、質の高い検査精度の保証を担保する上で重要である一方で、医療事故が起こる可能性もある。本講義は、医療安全の歴史や現状から基本概念を学び、安全管理に必要な知識および技術の習得、さらに検体採取（採血を除く）に必要な知識と技術習得を目的とする。また、実習では、皮膚表在組織病変部からの検体採取、咽頭・鼻腔拭い液や鼻腔吸引液の採取、および喀痰吸引をおこない、採取者および患者両面の立場・気持ちを理解する。

【学修目標】

- 1) 医療現場で医療事故を引き起こさないために、医療安全に関する知識を身につける。
- 2) 医療人としての高い倫理観を身につけるため、医療倫理を理解する。
- 3) 臨床検査技師の法的責任について列挙できる。
- 4) 先進・高度化する医療に対応できる実践能力を身につけるため、医療事件事例を適切に分析できる。
- 5) 皮膚表在組織、咽頭および鼻腔の構造について説明できる。
- 6) 各種検体採取技術を習得し、それらを安全に実施できる。
- 7) 各採取時に患者へ配慮を示すことができる。
- 8) 臨床検査の進歩や変化を学ぶために、臨床検査技師に関わる法律の一部改正に伴い拡大した業務範囲について列記できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	総論 1 医療倫理 医療安全	<ul style="list-style-type: none"> ・ガイダンス ・医療倫理の基本概念 ・医療安全の概要 ・医療事件事例 ・合併症 ・安全管理 教科書：第2章 キーワード：ヒポクラテスの誓い、インシデント、ハインリッヒの法則、PDCAサイクル	高橋祐輔
2	総論 2 法的知識と責任範囲	<ul style="list-style-type: none"> ・医療事故への対応 ・臨床検査技師の法的責任とその範囲 教科書：第2章 キーワード：事故対応、事故調査、法的責任、行政処分	高橋祐輔
3	検体採取に関わる解剖・生理	<ul style="list-style-type: none"> ・組織構造（皮膚、咽頭、鼻腔、腸組織など） 教科書：第4章 キーワード：皮膚、咽頭、鼻腔、腸組織	田中真樹
4	各種検査等の手技に伴う注意事項・安全管理 1	<ul style="list-style-type: none"> ・採取目的と関連疾患 ・皮膚表在組織病変部の採取 ・鼻腔拭い液の採取 ・咽頭拭い液の採取 ・鼻腔吸引液の採取 教科書：第4章 キーワード：感染症、迅速抗原検査、スワブ	高橋祐輔
5	各種検査等の手技に伴う注意事項・安全管理 2	<ul style="list-style-type: none"> ・喀痰吸引（気管カニューレ内部からの採取も含む） ・消化管内視鏡検査による組織検体の採取 ・静脈路への成分採血装置の接続並びに操作 ・運動誘発電位検査・体性感覚誘発電位検査に係る電極装着（針電極含む）・脱着 ・超音波検査における静脈路からの造影剤注入 ・直腸肛門機能検査 ・持続皮下グルコース測定 キーワード：静脈路、侵襲性、法改正	坊垣暁之
6	検体採取に関わる感染対策	<ul style="list-style-type: none"> ・感染対策の意義 	坊垣暁之

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
		<ul style="list-style-type: none"> ・防護具の使用法 ・感染予防策 教科書：第3章 キーワード：手指衛生、ガウンテクニック、標準予防策、感染対策	
7	検体採取法 1 鼻腔拭い液・咽頭拭い液・鼻腔吸引液・経口、経鼻又は気管カニューレ内部からの喀痰吸引	<ul style="list-style-type: none"> ・採取用器具と手技 ・患者への配慮 ・検体採取後の対応 ・注意事項 ・安全管理 教科書：第4章 キーワード：スワブ、吸引器、呼吸器感染症、感染対策	高橋祐輔 坊垣暁之
8	検体採取法 2 肛門、皮膚等、その他などの皮膚表在組織病変	<ul style="list-style-type: none"> ・採取用器具と手技 ・患者への配慮 ・検体採取後の対応 ・注意事項 ・安全管理 教科書：第4章 キーワード：皮膚感染症、感染性腸炎、綿棒、仰臥位	高橋祐輔
9) 12	検体採取法 3 鼻腔拭い液・咽頭拭い液・鼻腔吸引液・経口、経鼻又は気管カニューレ内部からの喀痰吸引	<ul style="list-style-type: none"> ・検体採取実技 キーワード：スワブ、吸引器、舌圧子、個人防護具 ・グループディスカッション（手技の反省）	高橋祐輔 田中真樹 坊垣暁之
13) 16	検体採取法 4 肛門、皮膚等、その他などの皮膚表在組織病変	<ul style="list-style-type: none"> ・検体採取実技 キーワード：綿棒、仰臥位、個人防護具 ・グループディスカッション（手技の反省）	高橋祐輔 田中真樹 坊垣暁之

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学環、学校の授業実施方針による

【アクティブ・ラーニング】

導入している

【評価方法】

課題 20% レポート 20% 定期試験(筆記試験) 60%

【教科書】

諏訪部章 他 編「最新臨床検査学講座 医療安全管理学 第2版」 医歯薬出版 2023年
 実習時には、実習内容と課題を記載したプリントを配布する。

【参考書】

一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会 監修「臨床検査技師のための医療安全管理教本 第1版」じほう 2017年
 一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会 監修「検体採取者のためのハンドブック 第1版」じほう 2016年

【備考】

クリッカーを使用した双方向型授業を行う。
 Google Formを利用して学習課題を提示する。

【学修の準備】

次回の授業内容およびキーワードについて、教科書を読み理解しておくこと(120分)
 授業終了後に提示した課題の実施またはレポート作成をすること(120分)

【ディプロマポリシーとの関連性】

(DP1) 生命の尊重を基盤とした豊かな人間性、幅広い教養、高い倫理観を身につけている。
 (DP2) 臨床検査に必要な知識と技術を習得し、先進・高度化する医療に対応できる実践能力を身につけている。
 (DP4) 臨床検査のスペシャリストとして、進歩や変化に常に興味を持ち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につけている。
 (DP6) 臨床検査学領域における様々な問題や研究課題に対し、解決に向けた情報の適切な分析、科学的思考と的確な判断ができる能力を身につけている。

(2026年度・医療技術学部)

【実務経験】

高橋祐輔（臨床検査技師）、田中真樹（歯科医師）、坊垣暁之（医師）

【実務経験を活かした教育内容】

医療機関での実務経験を活かし、基本的手技から検査のピットフォールまで、実践的指導を行う。